

「地域おこし協力隊」という言葉を聞いたことはありますか。安中市では現在、3人の若者が市の活性化のため、一定期間ではありますが、自身の持つ知識や技術を存分に発揮し日々活動しています。今回は、あと半年ほどで任期を終える3人が、どのような思いで活動してきたかを紹介します。



## 地域おこし協力隊って？

都市部に住んでいる人が、少子化や高齢化などの課題を抱える地域に移住して、地域ブランドや地場産品の開発・販売・PRなどの地域おこしの支援や、農林水産業への従事、住民の生活支援などの「地域おこし活動」を行いながら、その地域への定着・定住を図る取り組みで、隊員は1～3年の期間、活動を行います。

平成21(2009)年に国(総務省)が制度化し、初年度は31の自治体が計89人の隊員を受け入れました。年々その規模は拡大し、令和3年度には1,085の自治体で約6,000人の隊員が活動しています。

安中市は、平成29年度からこれまでに8人の隊員を受け入れています(令和6年2月現在)。

